

動物の診察室から

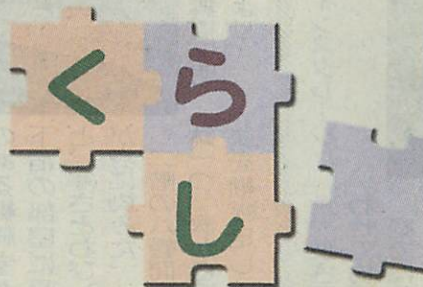
○ 13 ○

「こんにちはー 僕は九官鳥の『きゅーちゃん』です。僕は、以前あるお家で飼われていました。その家では、おじいさんとおばあさんが僕をかわいがってくれ、僕はいろんな言葉をそこで覚えしました。電話の音や、ごみ収集車の音楽、一番得意なのは『もしもし、そう

した。その時、本当に運よく優しいお姉さんが通りかかり、猫を追い払って僕を助けてくれました。そしてそのお姉さんは、僕をこの病院へ連れてきてくれたのです。

この病院で治療を受けすっかり元気になりましたが、僕は野鳥ではないので保護してくれると

待合室のきゅーちゃん



もしもし、なじらね!

だねー、なじらねー』です。

保護5年飼い主どこに

でもある日、僕はかこの入り口が開いているのに気付き、外に飛び出しました。かごの中と違って外は自由で広く、僕は久しぶりに楽しくなり夢中で遊んでいました。しかし、そんな僕を陰でジューッと猫が狙っていたのでした。僕は猫に胸を

ろはありません。最初は僕も緊張して静かにしていたのですが、この病院の待合室にいるうちに、前に覚えていたいろいろな言葉が話してみたくなりま

覚えた言葉です。前に飼ってくれていたおじいさんとおばあさんが見つかるまでは僕はここにいますので、皆さんよろしくお願いします !!

よつになりました。その声のトーンや内容から、年配のご夫婦が飼っていたものと推測されました。

新潟県では、野生の傷病鳥獣は新発田市(紫雲寺)の愛鳥センターで保護してくれますが、九

きました。保護直後は何も話さなかったのですが、しばらくするといろいろとおしゃべりをする

官鳥は野生の鳥ではないので保護してもらえませんが、野生でない動物は、新潟市の場合には保健所に保護されます。フェレット、プレーリードッグ、カメ、ニワトリなどが保健所へ持ち込まれるのですが、基